

ISAE2025 参加報告

高山沙耶（東海大学院農学研究科）

2025 年 8 月 4 日から 8 日にかけてオランダのユトレヒトにて開催された ISAE 2025（国際応用動物行動学会第 58 回大会）に参加し、「採卵鶏における刷り込み学習がエイビアリー導入後の行動に及ぼす影響」についてポスター発表させていただきました。まずは、本学会参加にあたり、参加助成していただいた動物の行動と管理学会の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

本大会では、91 件の口頭発表、309 件のポスター発表、4 件のシンポジウムから構成されるプログラムで開催されました。研究内容としては産業動物に関するものが多く、基礎的な動物行動学や動物心理学に関する研究だけではなく、動物介在療法や AI やセンサー技術を扱ったテーマも多く発表されていました。

学会参加初日、会場に到着して受付を済ませた後、まずは自分の発表ポスターを掲示しに向かいました。ポスターを貼るボードには番号が割り振られており、なんと 309 番までありました。その発表者の多さに圧倒されると同時に、初めての国際学会への参加であること、そして不慣れた英語で大勢の前に立たなければならないことへの不安が込み上げてきました。いざ発表当日、人前で話すのが得意ではない私は、開始前にポスター前で待機していたものの、緊張で手の震えが止まりませんでした。しかも私のポスターは会場の端にある 290 番で、誰も来てくれなかったらどうしようという不安もありました。そんな中、カナダから参加していた学生さんが足を運んでくださり、研究内容についての質問や、自国の鶏に関する法律についても教えてくれました。その後も何人もの方と意見を交わすことができ、発表を無事に終えられたことに安堵しました。英語でのコミュニケーションの難しさを感じつつも、それを上回る達成感から、その夜はオランダに着いてから初めてぐっすり眠れたことを覚えています。

国際学会参加にあたり、海外の研究発表を聞くこと以外にもう一つ楽しみにしていたのが「ランチ」でした。ウキウキしながら昼食会場に行くと、そこにはミニサイズのハンバーガーが山のように並んでいました。オランダに着いてからはピザやベーグル、ホットドックばかり食べていたため、「またパンか...。でも明日は違うものかも!」と淡い期待を抱きましたが、残念ながら、学会期間中のランチは全てハンバーガーでした。その中で興味深かったのは、昼食会場のハンバーガーがベジタリアンやビーガンの人でも食べられるように配慮されていたことです。さらに、街中のどのレストランでもベジタリアンやビーガン向けのメニューが用意されており、日常的に選択肢が保証されていることが印象的でした。

学会に参加し、さまざまな研究発表を聴講する中で、今後の実験に活かせる多くのヒントを得ることができました。大変有意義な経験となり、今後の研究をより良いものにできるよう精進していきます。現在解析中のデータも含め、今後も積極的に発表の機会を持てるように努めていきます。

